

ウィルソン株

ウィルソン株は、およそ 500 年前に切り倒された樹齢 2000 年の大きな屋久杉の残りです。この切株は周囲 13.8 メートルの大きさで、これより大きいのは、巨大な縄文杉のみです。切り株の空洞は約 16 平方メートルで、中に小さな祠があります。切り株の中に立てば、上にハート型の穴を見ることができるでしょう。ウィルソン株の 3 本の子孫も近くで育っており、倒木の再生を示す良い例となっています。

この切株は、イギリスの植物学者 E. H.ウィルソン(1876-1930)にちなんで名付けられました。ウィルソンは、屋久島の森の保護を早い時期から提唱し、1914 年、調査中にこの切株を見つけました。

この屋久杉(訳注：ウィルソン株)は、16 世紀の武将、豊臣秀吉(1537-1598)の命で切り倒されたと考えられています。1586 年、鹿児島島の島津家との戦いに勝利したあと、秀吉は島津家に対し、屋久島の丈夫な木を届けるよう命じました。秀吉の功績を記念する、寺院の建設に利用するためです。

ウィルソン株の伐採は、屋久島におけるでの製材の長い歴史の始まりとなりました。

ウィルソン株は、大株歩道沿いにあります。